



町を守る勇壮な 消防団の心意気

令和5年 南関町消防出初式

町は1月14日、令和5年南関町消防出初式を挙行。3年ぶりの通常開催となった今年は、町内4つの分団から消防団員264人が参加し、今年1年の無災害を願うとともに、防火・防災意識の高揚を図りました。

第1会場の防災広場では式典が実施され、町長式辞・団長あいさつのほか、功績を残した団員の表彰や約350mの分列行進を行いました。

第2会場の関川河畔では消防車両21台による「斉放水」が行われ、ホースから勢いよく噴き出した放水が冬空にきれいなアーチを描きました。続いて行われた「竿頭標的落とし」では、頭上16mの高さに入ったボールを手押し式の消防ポンプでいかに早く撃ち落とせるか、団員が競いました。最後は1882年から続く伝統の「放水合戦」を行い、川の両岸に配置された手押しポンプのレバーを勢いよく上下させながら、ホースを手に川へ入った団員が激しく水を掛け合いました。

団員は寒さを感じさせない勇壮な姿で、集まった見物客に町消防団としての心意気を披露しました。



ハタチの門出

令和5年南関町二十歳の集い（主催…実行委員会）が1月4日、南の関うから館で開催されました。

今年、本町で20歳を迎えたのは平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた83人。当日は、華やかな振袖や新調したスーツに身を包み、同級生と思い出話や記念撮影をして久しぶりの再会を楽みました。

式に先立ち佐藤町長が「故郷に誇りと愛着を持ち、夢や希望を抱いて自分の信じた道を切り拓いてほしい」とあいさつ。

実行委員を代表して高田宗治さん（上坂下）は「大きな節目の今、それぞれが自身の目標に向けて歩み続けている途中。これからも温かい目で見守ってください」と力強く述べました。

20歳の皆さんは、お世話になった人への感謝と、新たな希望を胸に、未来への第一歩を踏み出しました。

